

船橋遺跡の発掘調査

(財)大阪府文化財調査研究センター

所在地：大阪府藤井寺市大井5丁目地内

調査期間：平成12年7月～平成13年2月

調査原因：大和川高規格堤防建設

事業者：建設省近畿地方建設局大和川工事事務所

調査面積：約3000㎡

船橋遺跡について

船橋遺跡は、大和川と石川の合流地点の西側、柏原・藤井寺両市にまたがって所在する縄文時代～近世の複合遺跡です。1704年に行われた大和川の付け替え工事により遺跡は分断されましたが、その結果、各時代の遺構や遺物が河床に露出して人々の目に触れることとなり、古くから注目されてきました。

考古学的には、多種多様で膨大な量の遺物が注目され、縄文時代終わり頃の「船橋式土器」や古墳時代の土師器など、土器の研究において重要な資料となっています。また、礎石の可能性のある巨石が検出されたこと、奈良時代の瓦や土器が多く出土すること、和同開珎をはじめとする皇朝十二銭や鑄造関係の遺物が出土していることなどから、遺跡の性格について様々な考察がなされ、河内国府跡説、船橋廃寺説など、多くの説が提示されています。これは、遺跡が奈良・大阪両府県を流れる大和川の大阪側の玄関口という交通の要所に位置していることが影響しているものと考えられます。

しかし、過去の発掘調査は大和川河床内を中心に行われてきたため、流水による浸食が著しく、また調査面積も限られていたこともあって、遺跡の性格を解明する十分な調査はできませんでした。その中で1993年に柏原市教育委員会により行われた北側河川敷の調査では、浸食を免れた部分で古墳時代初め頃の竪穴住居や井戸、飛鳥時代の建物などが検出され、多くの成果をあげています。

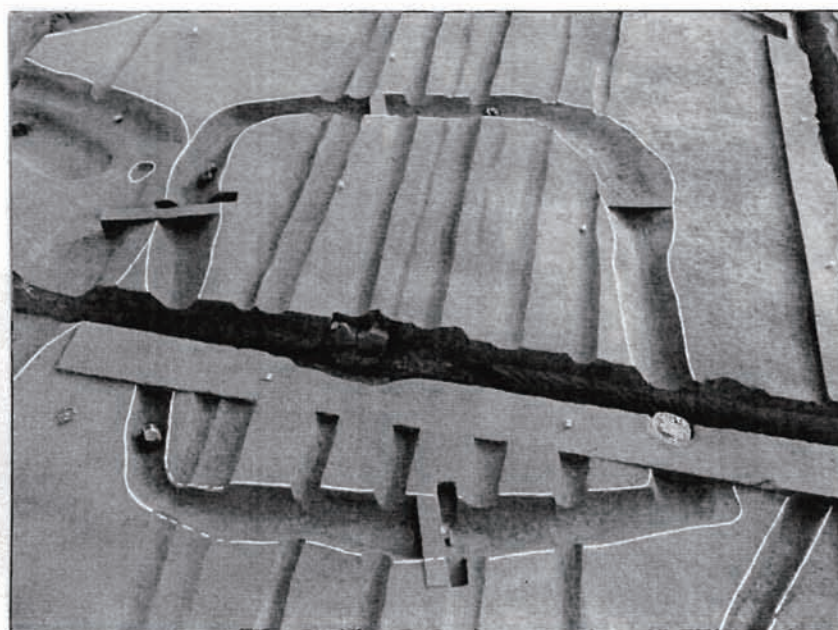
今回の調査成果について

現在までの調査では、古代～近世の遺構面を6面検出しました。過去の調査の障害となってきた川の跡も平安時代の遺構面で発見されましたが、調査区の南西隅をかすめるにとどまったため、より古い時代の遺構面を広域に調査をすることが可能となりました。

本日、見学していただくのは、古墳時代前期頃（約1700年前）の遺構面です。調査の結果、溝や流路を検出し、方形に溝を巡らせた遺構も4基見つかりました。このような方形に巡る溝は、方形周溝墓と呼ばれる弥生時代の墓や古墳の周囲に多く見られます。後の時代の耕作などによって本来の地面が削られていることから、現時点では人を埋葬した痕跡は見つかっていません。そのため断定はできませんが、今回検出された方形区画の溝も、墓のまわりを巡る溝である可能性があります。なお、溝の中からは多くの土器や板状の木製品、こぶし大の石が出土しています。



周溝墓群検出状況（南から）



方形周溝墓 1（北から）



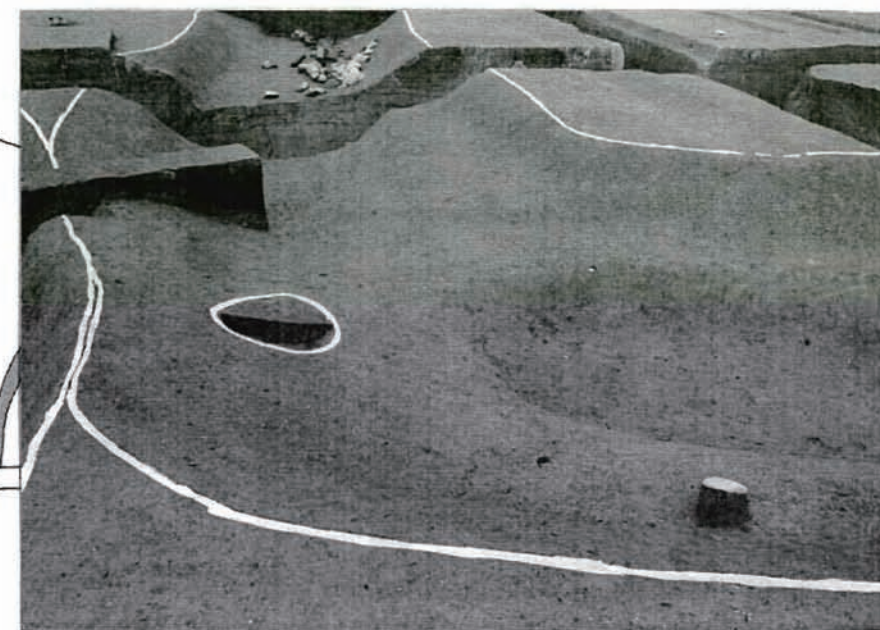
方形周溝墓 1 遺物出土状況（南から）



方形周溝墓 2（西から）



方形周溝墓 2 遺物出土状況（北西から）



方形周溝墓 2 周溝南西コーナー
検出状況（南から）



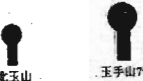
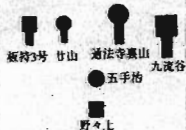
方形周溝墓 2 遺物出土状況（南東から）

周辺の主な遺跡



参考資料

今回検出した方形周溝墓はおおよそこの時期のものと考えられます

	玉手山・松岳山古墳群	石川流域の古墳群	大和盆地東南部・佐紀盾列・古市古墳群
1期			 深墓 中山大塚 西殿塚
2期	 玉手山9号	 真名井 菰井丸山	 新井茶臼山
3期	 玉手山11号 玉手山3号 玉手山5号 玉手山8号 宮山 松岳山 玉手山2号 玉手山4号 玉手山6号 狐塚 駒ヶ谷北	 御旗山 大跡山	 行燈山 洗粉向山 五社神 宝来山 陵山
4期	 北玉山 玉手山7号	 坂持3号 甘山 蒲法寺裏山 九波谷 五手治 野々上	 津家城山 古意山 二ツ塚

伊藤聖浩 「南河内の地域における前期古墳」『大阪の前期古墳』藤井寺市教育委員会（1998）

掲載の表を転載・加筆